

開催事業の様子

人材育成 青少年育成講座開催

伊勢みずほ講演会 「みんなの言葉は生きている」

11月10日（金）の青少年育成講座では、県内を中心にテレビやラジオで活躍されているフリーアナウンサーの伊勢みずほさんの講演会を開催し、頸城中学校全校生徒と保護者、200名が聴講しました。

伊勢さんは、生徒たちとのゲームを通して言葉で伝えることの難しさを伝え、自身がアナウンサーになることができた経緯やがんになった体験などを分かりやすい口調でお話くださいました。

講演の感想を抜粋で紹介します。



最初は「言葉は生きている」の意味が分からなかったけれど、言葉は凶器にもなり薬にもなるという意味だと分かり、なるほどと思いました。夢を人に言うことや相談することは恥ずかしくないということが印象に残りました。夢を探して見つかったら、それを目指して勉強をがんばりたいと思いました。視点を変えることも大切だと分かりました。(中2)

勇気を出して人に「話す」ことは、心の辛いことを「放す」のと同じことだと聞いて、人に言うのが難しいと思うことも信頼できる人に言ってみると少し心が軽くなるのかなと思いました。伊勢みずほさんもがんだと知ったときはすごく辛かったと思いますが、勇気を出してSNSで伝えたことはすごいなと思いました。話すことで辛かったときより幸せになれると講演会で知ることができたので、夢や悩み事を人に話してみようかなと思いました。(中3)

がんを公表しようか悩んでいたみずほさんにおじいちゃん先生が言った「何言ってるの。がんになることは珍しいことでも、かっこ悪いことでもない。」という言葉。それと同じことが、いじめにも当てはまると聞いて驚きました。本当に大人になることは問題を一人で解決することじゃなくて周りの人に助けを求めて乗り越えることができることだと思いました。卒業まで毎日を一所懸命に過ごしたいです。(中3)

話すこと、伝えることの大切さを教えてもらいました。周りに伝えることが大事になるからこそ思っていることを正確に伝えるために言葉の選び方が重要であると。この先、進学して社会人になっても覚えておいてほしいお話でした。(保護者)



「言葉にしたら応援団が現れる」「がんもいじめも珍しいことでも恥ずかしいことでもない。周りに伝えて周りの力を借りて乗り越えていく」とも素敵な言葉にたくさん出会うことができました。言葉に出さないと伝わらないけど、出した言葉は思っていないようにとられるかもしれないことを考えて、きちんとよく考えて話したり送ったりしようと思いました。(保護者)

問い合わせ・申込み先

(公財) ユートピアくびき振興財団

頸城区百間町636番地 頸城区総合事務所2階
TEL 025-530-2771 FAX 025-530-2820
URL <https://kubikizaidan.com>

ユートピアくびき 振興財団会報

第59号

2024.3.25

令和6年度 事業及び予算の概要

当財団が設立されて早や20年が経過しようとしています。この間、地域の発展に寄与することを目的に、青少年の就学を支援する奨学金の無利子貸与事業をはじめ、地域人材育成事業やまちづくり振興支援事業などを行ってまいりました。

新年度事業については、財団設立の経緯や目的を踏まえ、住民のまちづくり活動を支援する当財団助成金の要望にはできる限り応えることを優先する計画としました。

また、奨学金貸与事業についても、頸城村から引き継いだ将来の地域の担い手を育成するための事業であることから、要望に対応する予算措置を図ってまいりたいと考えています。

こうしたことを前提に令和6年度の主な事業は次のとおり実施する計画といたしました。

地域人材育成事業では、財団主催の講演会等については文化講演会と映画観賞会を開催するほか、青少年の育成では中学生を対象に将来の夢を持つことの大切さを伝える講演会を開催する一方、子供たちの国語の読解力を高めるための読書活動推進事業を引き続き実施します。

奨学金貸与事業では、継続貸与者12名に加え新規奨学生6名を予定しています。

まちづくり振興支援事業では、地域コミュニティ助成事業に例年の2倍を超える要望があり、これに対応する予算措置を行いました。

令和6年度 事業計画

地域人材育成に関する事業

***映画鑑賞会** 6月26日（水） 入場無料・入場券必要
2回上映〔昼の部 午後2時～ 夜の部 午後6時～〕
作品名：『老後の資金がありません』
出演：天海祐希、松重豊、草笛光子、若村麻由美 ほか
老後の資金問題というシリアスなテーマをユーモラスに描いた垣谷美雨の小説を映画化！



***文化講演会** 10月26日（土） 午後2時～ 入場無料・入場券必要
講師：木山裕策氏（シンガー）
演題：「ガンが教えてくれたこと
～自分に向き合ってみつけた夢～」(仮題)
甲状腺がんを患いながらも歌手をめざし、家族をテーマにした楽曲「home」でメジャーデビュー。デビュー後も会社員と歌手の2足のわらじ生活を続けた自身の経験から「あきらめないことの大切さ」について講演。ミニコンサートと2本立て。



*青少年育成講座

スポーツ選手、文化人などを講師に招き、青少年が広い見識と知識を養い、将来の夢を持つことの大切さと努力により夢が可能になることを伝える講演会を開催します。

*読書活動推進事業 10月下旬 小学校を通じて申込案内を配布

本に親しむきっかけとしてもらうため、小学1年生の希望者を対象に優良図書の配付を行います。

地域振興を担う青少年への奨学金貸与に関する事業

*奨学金貸与事業 詳細は下記をご覧ください

頸城区の住民であって中学校及び高等学校を卒業した生徒又は学生で経済的理由により就学困難な学生に対し学費を貸与し、有為な人材を育成します。

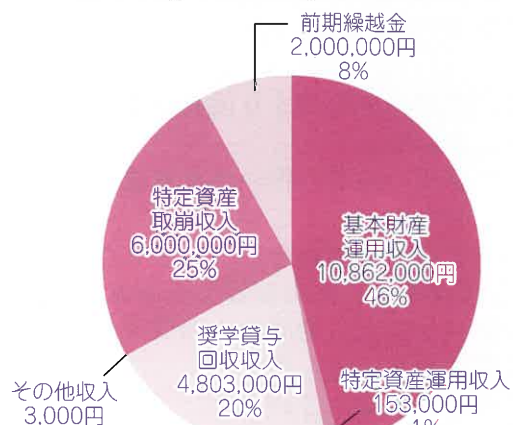
まちづくり振興支援に関する事業

*地域コミュニティ助成事業 詳細は下記をご覧ください。

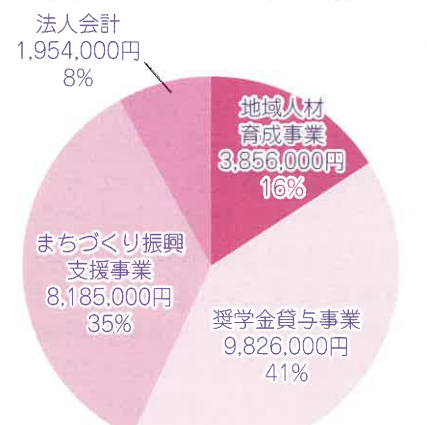
町内会など公益活動を行う住民団体が実施する地域のまちづくり活動及びコミュニティ活動に必要な施設整備や地域の史跡、遺跡、文化などの保存・伝承事業に対して予算の範囲内で事業費の一部を助成します。

令和6年度 収支予算

収入の部 (収入総額23,821,000円)



支出の部 (支出総額23,821,000円)



新規奨学生の募集

【出願資格】

1. 本人又は保護者が既に1年以上頸城区に住所を有し引き続き居住している人
2. 高等学校（中等教育学校の高等課程を含む）、高等専門学校、特別支援学校（高等部に限る）、専修学校（高等課程・専門課程で就業年限が2年以上のものに限る）、大学及び大学院に在学している人

【奨学区分と貸与額】

区分	月額	入学金
高等学校（中等教育学校後期課程含む）、高等専門学校（1～3年） 専修学校（高等課程）、特別支援学校（高等部）	10,000円	50,000円
高等専門学校（4・5年・専攻科）、専修学校（専門課程） 短期大学	20,000円	200,000円
大学・大学院	30,000円	300,000円

申込期限
4月16日

地域コミュニティ助成事業の募集

1. 市が行う「町内会集会場整備等補助事業」などと併せて申請する場合

- ・助成対象事業費は上越市の補助額の残額、助成率は上越市の補助率と同率です。
- ・助成限度額は、40万円。ただし、ごみ集積施設に関する助成限度額は10万円。
- ・上越市の補助対象事業であっても、緊急性などから上越市の補助を受けられず当財団の助成のみを受ける場合は、助成対象事業費は30万円まで、助成率は80%で助成限度額は24万円です。

2. 市の補助対象とならない事業の場合

- ・助成率は80%、助成限度額は40万円です。

申込期限
4月30日

開催事業の様子

人材育成

林家三平・林家木久蔵 落語二人会開催



11月23日(木・祝)に林家三平師匠と、林家木久蔵師匠をお迎えし、当財団では初の試みとなる「落語会」を開催しました。事前の募集では定員をはるかに上回る皆様から応募をいただき抽選により当選された393名の方々がご観覧されました。

最初に登壇したのは、三平師匠のお弟子さんである林家たみさん。学生時代に柔道をされていたことから「たみ」という芸名になったそうです。まずは客席の緊張をほぐしてから、木久蔵師匠が登場。登場するやいなや会場から割れんばかりの拍手が沸き上がりました。木久蔵師匠は上越とは縁があり、以前から柿崎区へ農業体験に訪れているそうです。

演目はお馴染みの「時そば」。全てが裏目にする主人公の様子を滑稽に演じ笑いを誘いました。よく知っている噺ですが、扇子を箸に見立てて蕎麦をすすする仕草は見事で、生で見る落語の臨場感に惹き込まれ会場は終始笑い声が響きました。

最後に登壇したのは三平師匠。すぐに高座には上がらず、高座の前でおじぎ、さらに舞台の端まで移動してお客様に大きく手を振ってまたおじぎ、その様子に大きな拍手と笑い声が起こります。ご家族や歌丸師匠、木久蔵師匠とのエピソードにお客様は笑っぱなし。時々お客様に「ねえ、お母さん」と話しかけたりして、その絶妙なタイミングにまた大爆笑！そして、演目が始まったのは終演予定時刻の午後3時頃。「少し時間を延長してもいいですか?」と前置きするとまた大きな拍手。披露いただいた演目は、亡くなられたお父様（初代林家三平氏）から直接教わったという古典落語「みそ豆」。熱々のみそ豆を「ふうふう」と冷ます仕草はさすがで、お椀から熱々の湯気があがっているようでした。

テンポのよい噺と身振り手振りで落語の世界に惹き込まれ、最初から最後まで笑いの絶えない落語会となりました。

人材育成

読書活動推進事業

小学1年生を対象に本が身近にある環境をつくり本に親しむきっかけを提供するため、優良図書の配付を行いました。

対象となる区内小学1年生のうち、55名の方からお申込みをいただきました。回答いただいたアンケートから感想や子ども達の様子をご紹介します。

- ・喜んで何度も読んでいました。昔からある本だったので、親も懐かしかったです。
- ・一生懸命に見ていました。これは?これは?という感じで子供と一緒に読みました。
- ・毎日眠る前に自分で読んだり、読んであげたりしています。シリーズがあるのでまた買ってあげたいです。
- ・2回も3回も読み、楽しそうにしていました。
- ・本はプレゼントでもらったりする以外あまり買わないので、子供がとても喜びました。レターバックも子供のあて名で届き喜んでいました。
- ・このような事業がある事を知らなかったのでビックリしました。子供も親も嬉しかったです。
- ・絵本を買ってあげる機会がなかったのでビックリしましたがありがたかったです。続けてほしいです。
- ・兄が本人よりも夢中になって読んでいました。

